



グラスフィアジャパン ネットワークビデオレコーダー

取扱説明書 GUI4.63 rev.1

[対象型番]

GJ-NV7608-M2/GJ-NV7616-M2

GJ-NV7732-M4

0. はじめに	1
0.1. このマニュアルについて	1
0.2. 免責事項	1
0.3. 記号の定義	2
1. スタートアップ	4
1.1. デバイスのアクティベーション	4
1.2. ログイン	7
1.2.1. ロック解除パターンの設定	7
1.2.2. ロック解除パターンでログインする	7
1.2.3. パスワードでログインする	8
2. ライブビュー	11
2.1. GUIの概要	11
2.2. PTZ制御	13
2.2.1. PTZパラメータの設定	13
2.2.2. PTZコントロールパネルの紹介	14
2.2.3. プリセットのカスタマイズ	15
2.2.4. パトロールのカスタマイズ	16
2.2.4. パトロールのカスタマイズ	17
2.2.5. パターンのカスタマイズ	18
3. 再生	19
3.1. GUIの概要	19
3.2. 通常の再生	20
3.3. スマート再生	22
3.4. ビデオクリップのバックアップ	25
4. ファイル検索	27
4.1. ファイル検索方法	27
5. システム	29
5.1. 全般	29
5.2. ユーザー設定	31
5.2.1. ユーザーの追加	31

5. システム	34
5.3. ネットワーク	34
5.3.1. TCP/IP	34
5.3.2. DDNS	35
5.3.3. PPPoE	35
5.3.4. NTP	36
5.2.3. NAT	37
5.4. 詳細設定	41
5.4.1. 電子メール	41
5.4.2. プラットホームへのアクセス	43
5.4.3. 追加設定	45
5.4.4. ログサーバ設定	46
5.5. イベント（通常イベント）	48
5.5.1. 動体検知録画	48
5.5.2. ビデオ干渉	49
5.5.3. ビデオロス	50
5.5.4. アラーム入力	51
5.5.5. アラーム出力	53
5.5.6. 異常検知設定	54
5.6. ライブ表示	56
5.6.1. 全般	56
5.6.2. 表示	57
5.6.3. チャンネルゼロ	58
5.7. イベント設定	59
5.7.1. アラームスケジュールの設定	59
5.7.2. リンケージアクションの設定	61
6. カメラ	63
6.1. IPカメラ	63
6.2. 表示	72
6.3. プライバシーマスク	76

6. カメラ	80
6.4. ビデオパラメータ	80
6.4.1. メインストリーム	80
6.4.2. サブストリーム	81
7. ストレージ	84
7.1. スケジュール	84
7.1.1. 録画	84
7.1.1. 録画	85
7.2. ストレージデバイス	88
7.3. ストレージモード	91
7.3.1. グループモード	91
7.3.2. クォータモード	92
7.4. 詳細設定	94
8. メンテナンス	96
8.1. デフォルト	96
8.2. ログ検索	96
8.3. システムサービス	97
9. アラーム	100
9.1. イベントヒントの設定	100
9.2. アラームセンターでのアラーム表示	100
10. Web操作	102
10.1. ログイン	102
10.2. ライブビュー	103
10.3. 再生	103
10.4. 設定	104
10.5. ログ	104

0. はじめに

0.1. このマニュアルについて

このマニュアルには製品の使用および管理についての指示が含まれています。ここに記載されている写真、表、画像などの情報はすべて、説明のみを目的としています。このマニュアルに含まれる情報は、ファームウェア更新やその他の理由で事前の通知なく変更されることがあります。

このマニュアルの最新版については GraspHERE の Web サイト (<https://www.graspHERE.com/>) をご確認ください。この製品に関するサポート訓練を受けている専門家の指導や援助を受けた上でこのマニュアルを使用してください。

0.2. 免責事項

適用法により許容される範囲内で、このマニュアル、記載の製品とそのハードウェア、ソフトウェアおよびファームウェアは、あらゆる不具合や瑕疵を含め、現状有姿で提供されるものとします。GRASPHERE では明示の有無によらず一切の保証（商品性、十分な品質、特定の目的に対する適合性を含むが、これらに限定しない）を行いません。この製品は、ユーザーの責任で使用してください。GRASPHERE は、この製品の利用に関連する事業利益の損失や事業妨害、データの損失、システムの破損、文書の損失に関する損害を含む特別、必然的、偶発的または間接的な損害に対して、契約の違反、不法行為（過失を含む）、製造物責任、その他を問わず、たとえ GRASPHERE がそれらについて通知を受けていたとしても、一切の責任を負いません。

ユーザーは、インターネットの性質上、セキュリティリスクが内在していることを承知するものとします。GRASPHERE は、異常操作、プライバシー漏えいまたはサイバー攻撃、ハッキング、ウィルス検査やその他のインターネットセキュリティリスクから生じるその他の損害に対して一切の責任を負わないものとします。ただし、必要に応じて GRASPHERE は適宜技術サポートを提供します。




ユーザーは、この製品をすべての適用法に従って使用することに同意するものとし、使用方法が適用法に準拠するようにすることについては、ユーザー自身が一切の責任を負うものとします。特に、ユーザーは、第三者の権利（パブリシティ権、知的財産権、データ保護、および他のプライバシー権を含むが、これらに限定しない）を侵害しない方法でこの製品を使用することに責任を負います。ユーザーはこの製品を、大量破壊兵器の開発または製造、生物化学兵器の開発または製造、いかなる核爆発物または安全でない核燃料サイクルに関連する状況または人権侵害の支援での一切の活動を含む、いかなる禁止された最終用途にも使用しないものとします。

このマニュアルと適用法との間に矛盾が存在する場合は、後者が優先されます。

0. はじめに

0.3. 記号の定義

このマニュアルで使用する記号は以下のように定義されています。

記号	説明
 危険	防止できなかった場合に死亡や重傷を招くおそれのある危険な状況を示します。
 注意	潜在的に危険となりうる状況を示しており、防止できなかった場合、機器の損傷、データの消失、性能劣化など、予測不能な結果が生じる可能性があります。
 注記	本文内の重要事項を強調または補足する追加情報を提供します。

1. スタートアップ

1.1. デバイスのアクティベーション

初回アクセス時は、管理者パスワードを設定してビデオレコーダーを起動する必要があります。パスワード設定前はシステムの操作ができません。また、Webブラウザ、SADP、またはクライアントソフトウェアを使用してビデオレコーダーを起動することもできます。

開始前に

デバイスの電源を投入します。

ステップ

- (1) 「言語」を選択します。
- (2) [適用]をクリックします。
- (3) 「新しいパスワード」と「新しいパスワード確認」に同じパスワードを入力します。

⚠ 注意

製品の安全性を高めるために、お客様が選択する強度の高いパスワードを作成することを強くお勧めします(大文字、小文字、数字、特殊文字の3つ以上を含む、最低8文字を使用してください)。また、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。特にセキュリティの高いシステムでは、パスワードを毎月または毎週リセットすることで、製品をより良く保護することができます。

- (4) デバイスに接続されているネットワークカメラを起動します。
- (5) 「GUIDエクスポート」にチェックを入れますと、パスワードの復元に使用可能なファイルをエクスポート可能になります。
- (6) 「チャンネルのデフォルトパスワードを作成」にネットワークカメラのパスワードを入力します。
※ネットワークカメラを登録する際に「デフォルトパスワードを使用する」ことが可能です。
- (7) [OK]をクリックします。



図1-1 アクティベーション

1. スタートアップ

1.1. デバイスのアクティベーション

次のステップ

ウィザードに従って基本パラメータを設定します。

- パスワードを忘れた場合、リセットするには、弊社ヘレコードを送付頂く必要があります。（有償）
- ロック解除パターンの場合、詳細は「ロック解除パターン設定」を参照してください。
- 一般的なシステムパラメータの場合、詳細は「一般」を参照してください。
- 一般的なネットワークパラメータの場合、詳細は「一般」を参照してください。
- ストレージ・デバイス構成の場合、詳細は「ストレージデバイス」を参照してください。
- ネットワークカメラを追加する場合、詳細は「ネットワークカメラ」を参照してください。

1. スタートアップ

1.2. ログイン

1.2.1. ロック解除パターンの設定

Adminユーザーは、ロック解除パターンを使用してログインできます。
デバイスがアクティブになった後、ロック解除パターンを設定できます。

i 注記

- 各ドットを重複してパターンを描くことはできません。1ドット1回のみ通過するパターンを描いてください。
- パターンは少なくとも4ドット以上通過して描く必要があります。

(2) 設定したパターンを確認するために、再度同じパターンを描きます。

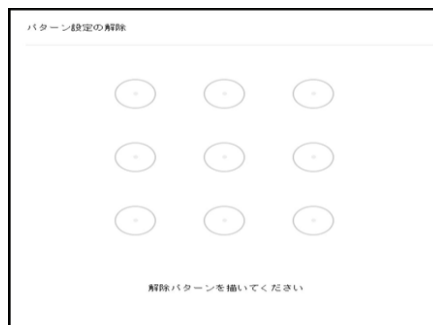


図1-2 ロック解除パターンの設定

初回のパターンと確認のパターンが一致すると、正常に設定されます。

1.2.2. ロック解除パターンでログインする ステップ

(1) ライブビュー上でマウスを右クリックします。

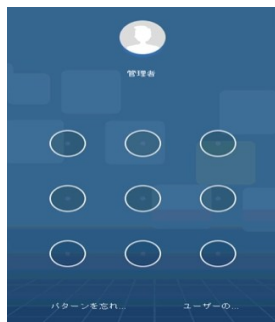


図1-3 ロック解除パターンの描画

(2) あらかじめ設定したパターンを描いて「メニュー操作」に入ります。

i 注記

- パターンを忘れた場合は「My Patternを忘れた」または「ユーザーを切り替える」をクリックして、パスワードでログインします。
- 間違ったパターンを5回以上描いた場合、システムは自動的に通常のログインモードに切り替わります。

1. スタートアップ

1.2. ログイン

1.2.3. パスワードでログインする

ビデオレコーダーがログアウトしている場合、メニューなどの機能进行操作する前にログインする必要があります。

ステップ

- (1) 「ユーザー名」を選択します。



図1-4 ログインインターフェース



- (2) パスワードを入力します。
- (3) [ログイン]をクリックします。

i 注記

- 管理者のパスワードを忘れた場合は[パスワードを忘れた場合]をクリックして、パスワードをリセットすることができます。
- 誤ったパスワードを7回入力すると、現在のユーザーアカウントは60秒間ロックされます。

2. ライブビュー

2.1. GUIの概要

-  をクリックすると、「自動切替」が起動/停止します。自動的に次画面に切り替わります。
-  をクリックすると「フルスクリーンモード」になります。
- カメラをダブルクリックして「シングルスクリーンモード」で表示します。
もう一度ダブルクリックすると「シングルスクリーンモード」を終了します。
- エラーが発生すると、画面にエラー内容が表示されます。エラーによっては、画面をクリックして「解決操作」に直接アクセスすることができます。
- カメラのライブビュー画面を画面から希望の画面にドラッグして変更します。
- 上下にスクロールすると前後の画面に切り替わります。
- カーソルをカメラに合わせて、ショートカットメニューを表示します。

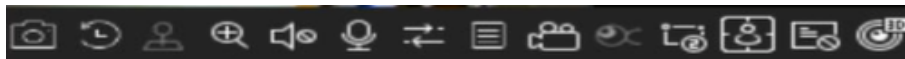



図2-1 ショートカットメニュー

表2-1 ショートカットメニューの説明



ボタン	説明	ボタン	説明
	現在のライブビュー画面をキャプチャーし、画像としてストレージに保存します。		ライブビューの情報を表示します。クリックは不要で、カーソルを合わせることでフレームレートなどの情報をリアルタイムで確認可能です。
	簡易再生画面に切り替えて、録画を再生します。		ライブビューの録画開始と停止を切り替えます。ただしスケジュール設定で録画が設定されている場合、そちらが優先されます。
	PTZコントロール画面を開きます。		フィッシュアイを展開します。180,360パノラマ以外を選択した場合シングルスクリーンモードに移行しますが、シングルスクリーンモード終了後も選択したフィッシュアイ展開の映像が表示されます。
	シングルスクリーンモードでデジタルズーム操作を可能にします。		
	ボリュームを操作します。左の画像はミュート状態を表します。		ライブビューに使用するビデオストリームを切り替えます。
	ピックアップライブビュー		VCAの表示/非表示を切り替えます。
	ライブビューの方針を設定します。リアルタイム、バランス、なめらかさの3方針から選択可能です。		POSの有効/無効を切り替えます。
			3D空間計測のオン/オフを切り替えます。

2. ライブビュー

2.1. GUIの概要

- ライブビューインタフェースでは、各カメラの画面右上隅にカメラの録画とアラーム状態を示すアイコンが表示されます。

表2-2 ライブビューアイコンの説明

アイコン	説明
	現在、録画状態であることを表示しています。
	アラーム（通常イベント、スマートイベント）が検知されていることを表示しています。

- マウスを右クリックして、ショートカットメニューを表示します。

図2-2 ショートカットメニュー(右クリック)

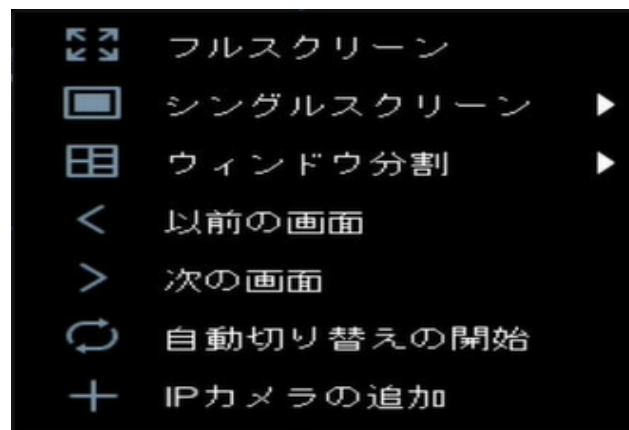


表2-3 ショートカットメニュー(右クリック)の説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	フルスクリーンモードに移行します。フルスクリーンモードでは「メニュー」というボタンに変化します。		次の画面に移動します。シングルスクリーンモードでのみ機能します。
	シングルスクリーンモードに移行します。「▶」の先に登録カメラの一覧が表示されます。		自動切り替えの開始/終了を切り替えます。
	ウィンドウ分割を変更します。「▶」の先に分割タイプの一覧が表示されます。		IPカメラの追加を行います。
	以前の画面に移動します。シングルスクリーンモードでのみ機能します。		

2. ライブビュー

2.2. PTZ制御

2.2.1. PTZパラメータの設定

PTZカメラを制御する前に、PTZパラメータを設定する必要があります。

ステップ


- (1) ライブビューでカメラをプレビューし[ショートカットメニュー]から  をクリックします。



図2-3 PTZ設定

- (2) 「PTZパラメータ設定」をクリックします。
- (3) PTZカメラのパラメータを設定します。

i 注記
すべてのパラメータはPTZカメラと同じでなければなりません。

- (4) [OK]をクリックします。

2. ライブビュー

2.2. PTZ制御

2.2.2. PTZコントロールパネルの紹介

表2-4 PTZパネルの説明

アイコン	説明	アイコン	説明
	各矢印ボタン：長押しすることで、その方向へカメラの向きを移動します 中央のボタン：自動ボタン、もう一度ボタンを押すまでカメラが回り続けます。	    	ライト機能のあるカメラのライトを点灯します。 再度クリックで消灯します。
	10段階でPTZ移動速度の調整が可能です。 遅くするには「-（マイナス）方向」に、速くするには「+（プラス）方向」に調整をします。		ワイパー機能のあるカメラのワイパーを起動します。再度クリックでワイパーを停止します。
	長押しでズームの調整が可能です。 ズームアウト：  ズームイン： 		3D定位機能をONにします。右クリックで解除します。
	長押しでフォーカスの調整が可能です。 フォーカスマイナス：  フォーカスプラス： 		センター機能（クリックした座標にカメラの中心を向ける）をONにします。右クリックで解除します。
	長押しでレンズの絞りの調整が可能です。 絞りマイナス：  絞りプラス： 		カメラのハードウェアメニューを表示します。 PTZの移動キーと絞りボタンで操作を行うこと「設定」
	「パーク（速い巡視）」 設定されているプリセットを順番に適用します。 再度ボタンをクリックするまで繰り返します。		  
	「元へ戻す」 プリセット、パトロール、パターンを削除します。 カメラの再起動が自動で行われます。	「ゴール」 現在選択されているパトロールを実行します。	
	「パーク（巡視1）」 パトロール1を実行します。再度ボタンをクリックするまで繰り返します。	「停止」 パトロールを停止します。	
	「パーク（プリセット点1）」 プリセット1を適用します。再度ボタンをクリックするまで繰り返し実行します。	  	「録画」 現在選択されているパターンの録画を開始します。
	カメラの可動域左端まで向きを移動します。 360度回転可能なカメラの場合無効になります。		「コール」 現在選択されているパターンを実行します。
	カメラの可動域右端まで向きを移動します。 360度回転可能なカメラの場合無効になります。	  	「停止」 パターンの録画および実行を停止します。
			「ズームイン、ズームアウト」 PTZパネルのズームと同じ機能です。
	PTZパラメータ設定画面を開きます。		「プリセット設定」 プリセット設定メニューを表示します。
			「プリセットを展開」 プリセット一覧を表示します。

2. ライブビュー

2.2. PTZ制御

2.2.3. プリセットのカスタマイズ

イベント発生時にPTZカメラが指す位置を設定します。

ステップ




- (1) ライブビューでカメラをプレビューし[ショートカットメニュー]から  をクリックします。
- (2) 方向ボタンを使用して、カメラを必要な位置に移動させます。
ズームとフォーカス、絞りを希望に合わせてます。
- (3)  をクリックして、プリセット登録メニューを表示します。
※  はPTZコントロールパネルの左下に表示されています。



図2-4 プリセット設定

- (4) プリセットの番号を選択して、名前を入力し、「適用」ボタンをクリックします。
※名前を空欄にした状態で適用しますと、
「"カメラ名"+Preset+"プリセット番号"」の名前がつきます。

次のステップ


 をクリックし、プリセットリスト内のプリセットをクリックして呼び出します。



図2-5 プリセットリスト

2. ライブビュー

2.2. PTZ制御

2.2.4. パトロールのカスタマイズ

パトロールとは、指定されたシーケンスを持つ一連のプリセットで構成されるパスのことです。このカスタマイズは、複数のプリセットをモニターするためのダイナミックライブイメージを提供します。

ステップ







- (1) ライブビューでカメラをプレビューし[ショートカットメニュー]から  をクリックします。
- (2) [パトロール]をクリックします。
- (3) 設定したいパトロール番号を選択し、  をクリックします。



図2-6 パトロール設定


表2-5 パトロール設定

アイコン	説明
	「追加」 パトロールに設定するプリセット設定画面を表示します。
	「削除」 選択したプリセットを設定から削除します。
	「上へ移動」 選択したプリセットの順序を繰り上げます。
	「下へ移動」 選択したプリセットの順序を繰り下げます。

2. ライブビュー

2.2. PTZ制御

2.2.4. パトロールのカスタマイズ

(4)  をクリックします。



キーポイント	
プリセ...	Preset 1 -
速度	1 -
巡回時間	15 -

図2-7 プリセット追加画面


(5) プリセット、速度、巡回時間を設定します

設定値は全て選択式になります。速度は1~40、巡回時間は15~120秒まで設定可能です。

※安全のため速度は1~15の間で設定することを推奨いたします。

(5) 「適用」をクリックします。

次のステップ

「パトロール」を選択して  をクリックします。

PTZカメラはあらかじめ定められたパトロールに従って移動します。

2. ライブビュー




2.2. PTZ制御

2.2.5. パターンのカスタマイズ


パターンは特定の位置における移動経路および滞留時間を記録します。

パターンを呼び出すと撮影したパスに合わせてPTZカメラが動きます。

ステップ

- (1) ライブビューでカメラをプレビューし[ショートカットメニュー]から  をクリックします。
- (2) [パターン]をクリックします。
- (3) パターンを選択します。
- (4)  をクリックします。
- (5) 方向ボタンを使用して、カメラを必要な位置に移動させ、ズームとフォーカスを環境に合わせて適切に設定します。
- (6)  をクリックします。以前のPTZカメラの移動経路は、パターンとして記録されます。

次のステップ

パターンを選択し、 をクリックして呼び出します。

PTZカメラは、あらかじめ設定されたパターンで移動します。

3. 再生

3.1. GUIの概要

「再生画面」に移動します。

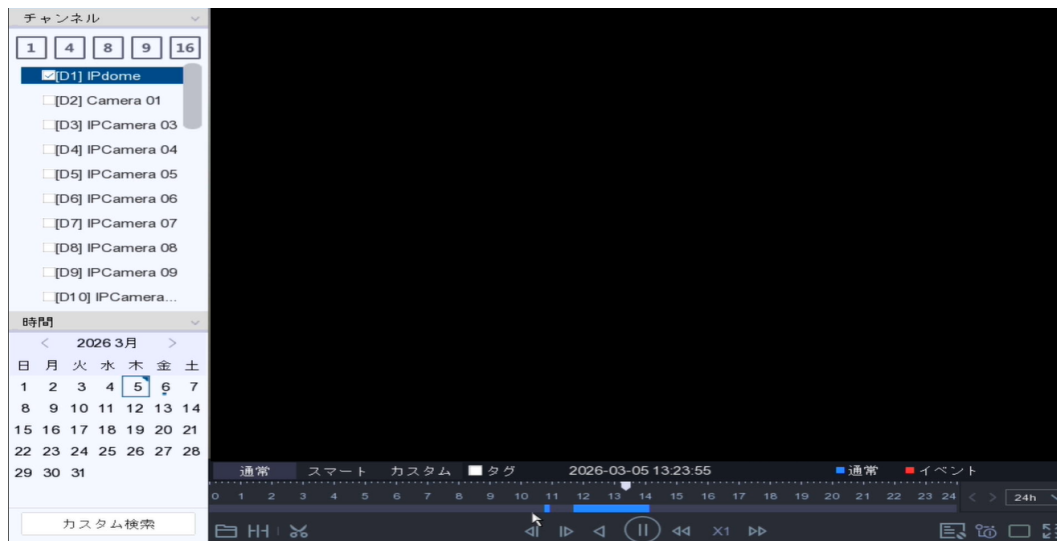


図3-1 再生

表3-1 再生インターフェースの説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	外部ファイル再生画面を開きます。		再生速度を遅くします。
	サブ期間再生画面に移行します。		再生速度を速くします。
	クリップモードに移行します。		POSオーバーレイの有効/無効を切り替えます。
	30秒前に戻ります。		ストリームタイプを切り替えます。
	30秒後に進みます。		分割表示を選択します。
	逆再生を始めます。		全画面表示に切り替えます。
	通常の再生を開始します。		



図3-2 タイムライン

- カーソルをタイムライン上に置き、タイムラインをドラッグして再生したい時間位置に移動できます。
- 青色のバーでマークされた期間にはビデオが含まれます。
赤いバーは、期間中のビデオがイベントビデオであることを示します。
- ズームアウト/タイムラインを切り替えるには、上下にスクロールします。

3. 再生

3.2. 通常の再生

イベント発生の無い通常の録画映像を再生します。

ステップ

- (1) [再生画面] に移動します。
- (2) カメラ一覧からカメラを選択します。
- (3) カレンダーで再生する日付を選択します。

i 注記










カレンダー日付の角にある青色の三角は、使用可能なビデオがあることを示します。たとえば、**5** はビデオが使用可能であることを意味します。**6** はビデオがないことを意味します。

- (4) オプション:カーソルを再生ウィンドウに置き、コントロールバーを表示します。



図3-3 コントロールバー

表3-2 ボタンの説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	現在の再生画面をキャプチャーし、画像としてストレージに保存します。		現在の再生映像のロック/ロック解除を切り替えます。
	現在の再生映像にタグをつけることが可能です。		ライン横断 (検知) ラインの指定を行います。
	現在の再生映像のデジタルズーム画面に移行します。		現在の再生映像に対してフィッシュアイ展開を実行します。ボタンにカーソルを合わせますと、フィッシュアイ展開の種類がポップアップします。
	現在の再生映像のオーディオのオン/オフを切り替えます。オーディオオンの場合、音量も調整することが可能です。		VCA情報の表示/非表示を切り替えます。
	ピックアップ再生をするマイクを選択します。		

3. 再生

3.3. スマート再生

「スマート再生モード」を選択すると、システムは「モーション検出」「ラインクロス検出」または「侵入検出情報」を含むビデオを分析およびマーク付けします。

開始前に

- カメラが「Dual-VCA」を有効にしていることを確認します。「設定」→「ストリーム」の「ビデオ/オーディオ」→「情報の表示」で、カメラのWebブラウザインタフェースを介して有効にすることができます。

ステップ

- (1) 「再生画面」に移動します。
- (2) [スマート]をクリックします。
- (3) カメラを選択します。



図3-4 スマート再生

- (4) コントロールバーを表示するには、再生ウィンドウにカーソルを合わせます。
コントロールバーの内容は通常の再生画面と全く同じになります。

次のステップ

通常の再生画面のGUIとは異なるボタンが3つあります。



図3-5 スマート再生GUI

3. 再生

3.3. スマート再生

表3-3 ボタンの説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	再生戦略設定画面を表示します。		車両検知の映像のみを再生タイムラインに表示します。
	人物検知の映像のみを再生タイムラインに表示します。		

再生戦略

再生戦略ボタンをクリックし、設定画面を表示させます。



図3-5 再生戦略

通常のビデオを再生しないでください

有効にすると、スマート情報のない動画は再生されません。

通常のビデオ

通常のビデオ再生速度を設定します。

このオプションは「通常のビデオを再生しないでください」がチェックされていない場合にのみ有効です。

スマート/カスタムビデオの再生速度

スマート情報の動画の再生速度を設定します。

このオプションは「通常のビデオを再生しないでください」がチェックされていない場合にのみ有効です。

3. 再生

3.4. ビデオクリップのバックアップ


再生中にビデオを切り出すことができます。

ビデオクリップをバックアップ装置(USBフラッシュ)に書き出すことができます。

開始前に

バックアップ装置をビデオレコーダーに接続します。

ステップ

- (1) 再生を開始します。詳細は「通常再生」を参照してください。
- (2)  をクリックします。
- (3) 開始時刻と終了時刻を設定します。タイムバーのカーソルを調整して、期間を設定することもできます。
- (4) [保存]をクリックします。
- (5) バックアップデバイスとフォルダを選択します。
- (6) [保存]をクリックしてクリップをバックアップデバイスにエクスポートします。

4. ファイル検索

4.1. ファイル検索方法

ステップ

(1) 「検索画面」に移動します。

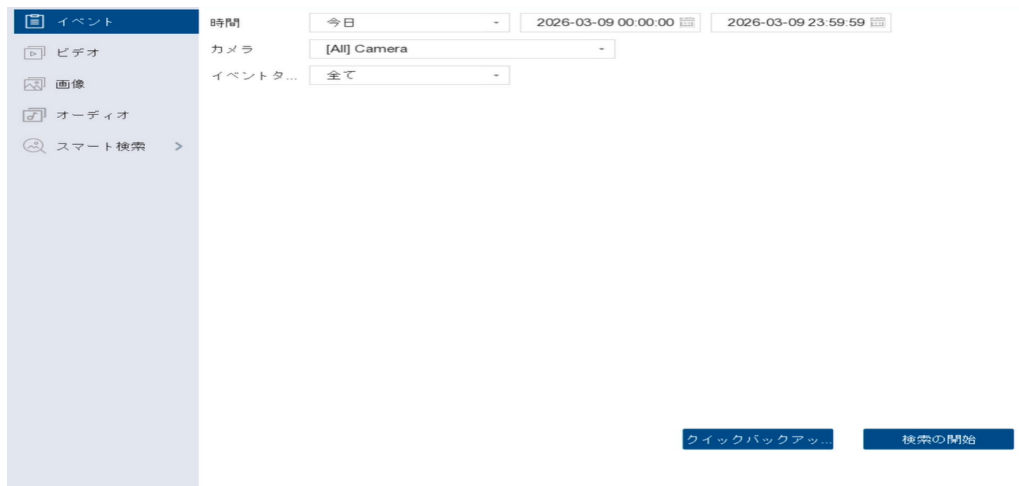



図4-1 検索

(2) 検索の種類(動画、画像、イベントなど)を選択します。

(3) 検索条件を設定します。

(4) [検索]をクリックします。

-  をクリックすると、検索したビデオを再生します。
- ファイルを選択し[エクスポート]をクリックすると、バックアップ・デバイスにエクスポートします。

5. システム

5.1. 全般

「システム」から「全般」に移動します。

レコーダーの基本的な設定を行います。

ご利用の環境に合わせた値を設定し、[適用]をクリックします。

言語

デフォルトの言語は日本語です。

タイムゾーン

ご利用の地域のタイムゾーンを選択します。

日付の表示

映像に表示される日付の形式を選択します。

システムの日付

映像に表示される日付を選択します。

システム時間

映像に表示される時刻を設定します。

デバイス名

レコーダーの名前を設定します。

デバイスNo

レコーダーの番号を設定します。1~255が利用可能です。

自動ログアウト

レコーダーの操作終了から自動的にログアウトするまでの時間を設定します。

ウィザード有効

チェックを入れますと、デバイスの起動後にウィザードがポップアップ表示されます。

オペレーションパスワード

チェックを入れますと、ログイン時にパスワードまたはパターン入力を求められます

VGA/HDMI解像度

出力解像度は、VGA/HDMIディスプレイの解像度と同じにする必要があります。

HDMI解像度2

出力解像度は、VGA/HDMIディスプレイの解像度と同じにする必要があります。

マウス速度

マウスポインタの速度を設定します。4つのレベルが設定可能です。

5. システム

5.1. 全般

CVBS出力輝度

CVBS出力輝度を設定します。10のレベルで設定可能です。

出力標準

NTSC/PALの2つから選択します。

夏時間を有効にする

チェックを入れますと、サマータイムが有効になり以降※の設定が可能になります。

※開始時間

夏時間の開始日を選択します。

※終了時間

夏時間の終了日を選択します。

DST補正

夏時間で早める時刻を選択します。30,60,90,120分の4段階で設定可能です。

5. システム

5.2. ユーザー設定

「システム」から「ユーザー」に移動します。

デフォルト・アカウント: Administrator。アドミニストレーターのユーザー名はadminです。

管理者は、「ユーザーを追加」「削除」および「編集」する権限を持ちます。

ゲストユーザーには「ライブビュー」「再生」および「ログ検索」の権限しかありません。

5.2.1. ユーザーの追加

ステップ

- (1) 「システム」→「ユーザー」の順に移動します。
- (2) [追加]をクリックして、管理者パスワードを確認します。

The screenshot shows a dialog box titled 'ユーザー追加' (Add User) with a close button (X) in the top right corner. The dialog contains the following fields and controls:

- ユーザー名:** A text input field with the placeholder text 'ユーザー名'.
- パスワード:** A text input field with the placeholder text 'パスワード作成'. Below it is a password strength indicator consisting of three gray bars.
- 確認:** A text input field with the placeholder text '確認'. Below it is a note: '有効なパスワード範囲は8-16しか...' (Valid password range is 8-16 characters...).
- ユーザーレベル:** A dropdown menu currently showing 'ゲスト' (Guest).
- ユーザーMACアドレス:** A text input field with six '00' placeholders separated by dots.
- OK:** A blue button at the bottom right of the dialog.

図5-5 ユーザの追加

- (3) ユーザー名を入力します。
- (4) 「パスワード」と「確認」に同じパスワードを入力します。

⚠注意

製品の安全性を高めるために、お客様が選択する強度の高いパスワードを作成することを強くお勧めします
(大文字、小文字、数字、特殊文字の3つ以上を含む、最低8文字を使用してください)。

- (5) [OK]をクリックします。

- [変更]/[削除]をクリックして、ユーザーを編集/削除します。

5. システム

5.2. ユーザー設定

パスワードリセットEメールの設定

ログインパターンとパスワードを忘れると、デバイスはパスワードリセットのために検証コードを含む電子メールを電子メールに送信します。

ステップ


- (1) 「システム」 → 「ユーザー設定」の順に移動します。
- (2) [変更]をクリックします。
- (3) 管理者パスワードを入力します。
- (4) [保存された電子メール]にメールアドレスを入力します。
- (5) [OK]をクリックします。

ロック解除パターンの編集

Adminユーザーは、ロック解除パターンを使用してログインできます。

ロック解除パターンを変更したり、ロック解除パターンを無効にすることができます。

ステップ

- (1) 「システム」 → 「ユーザー設定」の順に移動します。
- (2) [変更]をクリックします。
- (3) 管理者パスワードを入力します。
- (4) [パターン解除を有効化]機能のオン/オフを設定します。
- (5)  をクリックします。
- (6) 有効時のロック解除パターンを設定します。

1) マウスで画面上の9ドットのパターンを描きます。パターンが作成されたらマウスを離します。

注記

- 各ドットを重複してパターンを描くことはできません。1 ドット 1 回のみ通過するパターンを描いてください。
- パターンは少なくとも4ドット以上通過して描く必要があります。

2) 設定したパターンを確認するために、再度同じパターンを描きます。

- (7) [OK]をクリックします。

5. システム

5.2. ユーザー設定

パスワードの編集

デバイスパスワードを持っている場合は、新しいパスワードに変更できます。

管理ユーザーは、他のユーザーのパスワードを変更できます。

ステップ

- (1) 「システム」→「ユーザー設定」の順に移動します。
- (2) パスワードを変更したいユーザーを選択し、[変更]をクリックします。
- (3) [変更]をクリックします。
- (4) [パスワード]と[確認]に新しいパスワードを入力します。
- (3) [OK]をクリックします。

注記

管理者パスワードを変更した場合、前のロック解除パターンはクリアされます。

パスワードリセット

ログインパターンとパスワードを忘れたときにパスワードをリセットすることができます。

ステップ

- (1) パスワード・ログイン・インターフェースの[Forgot Password]をクリックします。
- (2) 「プライバシー・ポリシー」に同意した場合は[次へ]をクリックして、
QRコードを読み取ることができます。
- (3) ウィザードに従って、パスワードをリセットします。

5. システム

5.3. ネットワーク

5.3.1. TCP/IP

ネットワーク経由でビデオレコーダを操作する前に、TCP/IPを正しく設定する必要があります。

ステップ

- (1) 「システム」 → 「ネットワーク」 → 「TCP/IP」 に移動します。
- (2) ネットワークパラメータを設定します。

作業モード

i 注記
作業モードは、一部のモデルでのみ使用できます。

マルチアドレス

2つのNICカードのパラメータは、独立して設定できます。

パラメータ設定のために、NICタイプフィールドでLAN1またはLAN2を選択できます。

デフォルト・ルートとして1つのNICカードを選択できます。

システムはエクストラネットと接続しており、データはデフォルトルートで転送されます。

ネットワーク障害耐性

2つのNICカードは同じIPアドレスを使用し、LAN1またはLAN2にメインNICを選択できます。

このようにして、NICカードが故障した場合、ビデオレコーダは、システム全体の正常な動作を保証するために、他のスタンバイNICカードを自動的にイネーブルにします。

NIC選択

LAN1/LAN2から選択可能です。

NICタイプ

NICタイプを選択します。

DHCP有効

DHCPサーバが使用可能な場合は「DHCP有効」チェックボックスをオンにして、そのサーバからIPアドレスやその他のネットワーク設定を自動的に取得できます。

MTU

最大送信ユニット(MTU)の値を設定することが可能です。

デフォルトルート

LAN1/LAN2から選択可能です。

DNSの自動取得

DHCPがチェックされている場合、優先DNSサーバと代替DNSサーバを自動取得できます。

- (3) [適用]をクリックします。

5. システム

5.3. ネットワーク

5.3.2. DDNS

動的ドメインネームサーバ(DDNS)は、

動的ユーザーIPアドレスを固定ドメインネームサーバにマッピングします。

ステップ

(1) 「システム」→「ネットワーク」→「DDNS」に移動します。

DDNS	
有効化	<input checked="" type="checkbox"/>
DDNSタイプ	DynDNS
サーバアドレス	<input type="text"/>
デバイスドメインネーム	<input type="text"/>
ユーザ名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="text"/>
間隔 (分)	10
状態	DDNS使用禁止

適用

図5-6 DDNS

- (2) 有効にします。
- (3) DDNSタイプを選択します。
- (4) サービスアドレスやドメイン名などのパラメータを入力します。
- (5) [適用]をクリックします。
- (6) ステータスにDDNSステータスが表示されます。

5.3.3. PPPoE

ステップ

- (1) 「システム」→「ネットワーク」→「PPPoE」に移動します。
- (2) 有効にします。
- (3) [ユーザ名]を入力します。
- (4) [パスワード]を入力します。
- (5) [適用]をクリックします。

5. システム

5.3. ネットワーク

5.3.4. NTP

システム時刻が正確であることを保証するために、
ネットワーク時刻プロトコル(NTP)サーバに接続できます。

ステップ

- (1) 「システム」 → 「ネットワーク」 → 「NTP」 に移動します。
- (2) 有効にします。
- (3) パラメータを入力します。

間隔

NTPサーバとの2つの時間同期間隔です。

NTPサーバ

NTPサーバのIPアドレスです。

NTPポート

NTPサーバーとの通信で利用するポートを入力します。デフォルトは「123」です。

- (4) [適用]をクリックします。

5. システム

5.3. ネットワーク

5.2.3. NAT

クロスセグメント・ネットワークを介したリモート・アクセスを実現するためのポート・マッピングには、UPnP™と手動マッピングの2つの方法があります。

開始前に

UPnP™が必要な場合は、ルータのUPnP™機能を有効にします。

デバイスネットワーク動作モードがマルチアドレスの場合、デフォルトデバイスルートは、ルータのLAN IPアドレスと同じネットワークセグメント上にあることを推奨します。

ステップ

- (1) 「システム」→「ネットワーク」→「NAT」に移動します。



図5-7 NAT

- (2) 有効にします。
- (3) 「手動」または「自動」として[マップされたタイプ]を選択します。

自動

ポートマッピング項目は読み取り専用で、外部ポートはルータによって自動的に設定されます。

[更新]をクリックして、ポートマッピングの最新のステータスを取得できます。

手動

外部ポートの種類を選択します。 をクリックして編集します。

デフォルトの外部ポートNo.を使用するか、実際の要件に従って変更することができます。

外部ポートは、ルータのポートマッピングのポート番号を示します。

各ポートの値は1~65535であり、値は互いに異なる必要があります。

- (4) ルータの仮想サーバ(内部ソースポート、外部ソースポートなど)を設定します。

仮想サーバのパラメータは、デバイスポートに対応している必要があります。

5. システム

5.4. 詳細設定

5.4.1. 電子メール

イベント通知を受信するメールアカウントを設定します。

開始前に

- SMTPサービスが電子メールで利用可能であることを確認します。
- ネットワークパラメータを設定します。詳細は「一般」を参照してください。

ステップ

(1) 「設定」→「ネットワーク」→「詳細設定」→「電子メール」に移動します。

電子メール		その他の設定:	
優先SMTP:		差出人	<input type="text"/>
SMTPサーバ	<input type="text"/>	差出人アドレス	<input type="text"/>
SMTPポート	<input type="text" value="25"/>	宛先の選択	<input type="text" value="宛先 1"/>
SSL/TLS有効	<input type="checkbox"/>	宛先	<input type="text"/>
サーバー認証	<input checked="" type="checkbox"/>	宛先アドレス	<input type="text"/>
ユーザ名	<input type="text"/>	画像を添付済み	<input type="checkbox"/>
パスワード	<input type="text"/>	間隔	<input type="text" value="2s"/>
代替SMTP:			
有効化	<input checked="" type="checkbox"/>		
SMTPサーバ	<input type="text"/>		
SMTPポート	<input type="text" value="25"/>		
SSL/TLS有効	<input type="checkbox"/>		
サーバー認証	<input checked="" type="checkbox"/>		
ユーザ名	<input type="text"/>		
パスワード	<input type="text"/>		

テスト 適用

図5-10 電子メール

5. システム

5.4. 詳細設定

(2) 電子メールパラメータの設定

サーバ認証

サーバ認証機能を使用可能にするには、チェックを入れてください。

ユーザー名

SMTPサーバ認証のための電子メール送信者のユーザーアカウントです。

パスワード

SMTPサーバ認証のための電子メール送信者のパスワードです。

SSL/TLS

1.1 SMTP サーバで必要とされる場合は、SSL/TLS を有効にします。

添付画像

1.2 イベントがトリガされると、画像が電子メール添付として送信されます。

送信者

送信者名です。

送信者のアドレス

送信者の電子メールアドレスです。

宛先選択

宛先を選択します。受信機は3台まで設定可能です。

受信者

受信者名です。

受信者のアドレス

受信者のメールアドレス。

注記

- ネットワークカメラの場合、イベント画像は直接メール添付として送信されます。
- ネットワークカメラ1台で送信できるのは1枚のみです。

(3) オプション: 「テスト」をクリックしてテストメールを送信します。

(4) [適用]をクリックします。

5. システム

5.4. 詳細設定

5.4.2. プラットホームへのアクセス

SDKは、Intelligent Security Uplink Protocol (ISUP)に基づいています。

NVR、スピードドーム、DVR、ネットワークカメラ、モバイルNVR、モバイルデバイス、デコーディングデバイスなどのデバイスにアクセスするための、

サードパーティプラットフォーム用のAPI、ライブラリファイル、コマンドを提供します。

このプロトコルにより、サードパーティプラットフォームは、

ライブビュー、再生、双方向オーディオ、PTZコントロールなどの機能を実現することができます。

ステップ

- (1) 「システム」→「ネットワーク」→「詳細設定」→「プラットフォームへのアクセス」に移動しま
- (2) Typeを「ISUP」に設定します。

プラットフォームへのアクセス	
アクセス種別	ISUP
有効化	<input checked="" type="checkbox"/>
サーバーアドレス	
サーバポート	7660
登録ステータス	オフライン
設備ID	
バージョン	ISUP
暗号化パスワード	*****

適用

図5-9 ISUP

- (3) 有効にします。

5. システム

5.4. 詳細設定

i 注記

ISUPを有効にすると、他のプラットフォームへのアクセスが無効になります。

(4) 関連パラメータを設定します。

サーバアドレス

プラットフォームサーバのIPアドレスです。

サーバポート

プラットフォーム・サーバ・ポートは、1024から65535の範囲です。

実際のポートはプラットフォームが提供するものです。

設備ID

Device IDは、プラットフォームが提供します。

バージョン

ISUPプロトコルバージョン、ISUPのみ使用可能です。

暗号化パスワード

ISUP V5.0バージョンを使用する場合、暗号化パスワードが必要となり、

デバイスとプラットフォームの間でよりセキュアな通信を提供します。

デバイスがISUPプラットフォームに登録された後、検証のために入力します。

(5) [適用]をクリックして設定を保存し、デバイスを再起動します。

次のステップ

デバイスを再起動した後のオンライン(オンラインまたはオフライン)の状態を確認できます。

5. システム

5.4. 詳細設定

5.4.3. 追加設定

目的に応じて関連する機能を有効にするために、異なるポートタイプを設定します。

「システム」→「ネットワーク」→「詳細設定」→「追加設定」に移動します。

アラームホストIP/ポート

アラームが発生すると、アラームイベントまたは例外メッセージがアラームホストに送信されます。リモートアラームホストは、クライアント管理システム(CMS)ソフトウェアがインストールされている必要があります。

アラームホストIPとは、CMSソフトウェア(例えば、iVMS4200)がインストールされているリモートPCのIPアドレスを指し、アラームホストポート(デフォルトでは7200)は、ソフトウェアに設定されているアラーム監視ポートと同じでなければなりません。

サーバポート

リモートクライアントソフトウェアアクセスの場合。範囲は2000～65535です。

デフォルト値は8000です。

HTTPポート

リモートWebブラウザアクセスの場合、デフォルト値は80です。

マルチキャストIP

マルチキャストは、ネットワーク経由で許可されている最大数を超えるカメラのライブビューを有効にするように設定できます。マルチキャストIPアドレスは、224.0.0.0～239.255.255.255の範囲のクラスD IPをカバーし、239.252.0.0～239.255.255.255の範囲のIPアドレスを使用することを推奨します。CMSソフトウェアにデバイスを追加する時、マルチキャストアドレスはデバイスと同じでなければなりません。

RTSPポート

RTSP (Real Time Streaming Protocol: リアルタイムストリーミングプロトコル)は、ストリーミングメディアサーバを制御するための娯楽および通信システムで使用するために設計されたネットワーク制御プロトコルです。ポートはデフォルトで554です。

5. システム

5.4. 詳細設定

5.4.4. ログサーバ設定

指定したサーバにログをアップロードする設定です。

ステップ

(1) 「システム」 → 「ネットワーク」 → 「詳細設定」 → 「ログサーバ設定」に移動します。

図5-10 ログサーバ設定

(2) 有効にします。

(3) 関連パラメータを設定します。

アップロードタイムの間隔（時間）

サーバーにログをアップロードする間隔を設定します。設定値は時間単位です。

サーバーIPアドレス

ログをアップロードするサーバーのIPアドレスを入力します。

ポート

サーバーとの通信を行うポートを設定します。

(4) オプション: 「テスト」をクリックしてサーバーとの通信をテストします。

(5) [適用]をクリックします。

5. システム

5.5. イベント（通常イベント）

5.5.1. 動体検知録画

動作検出

動作検出により、ビデオレコーダは監視領域内の動きのあるオブジェクトを検出できます。
検出した際に、設定したアラームをトリガします。

ステップ

- (1) 「システム」→「イベント」→「通常イベント」→「動体検知録画」に移動します。

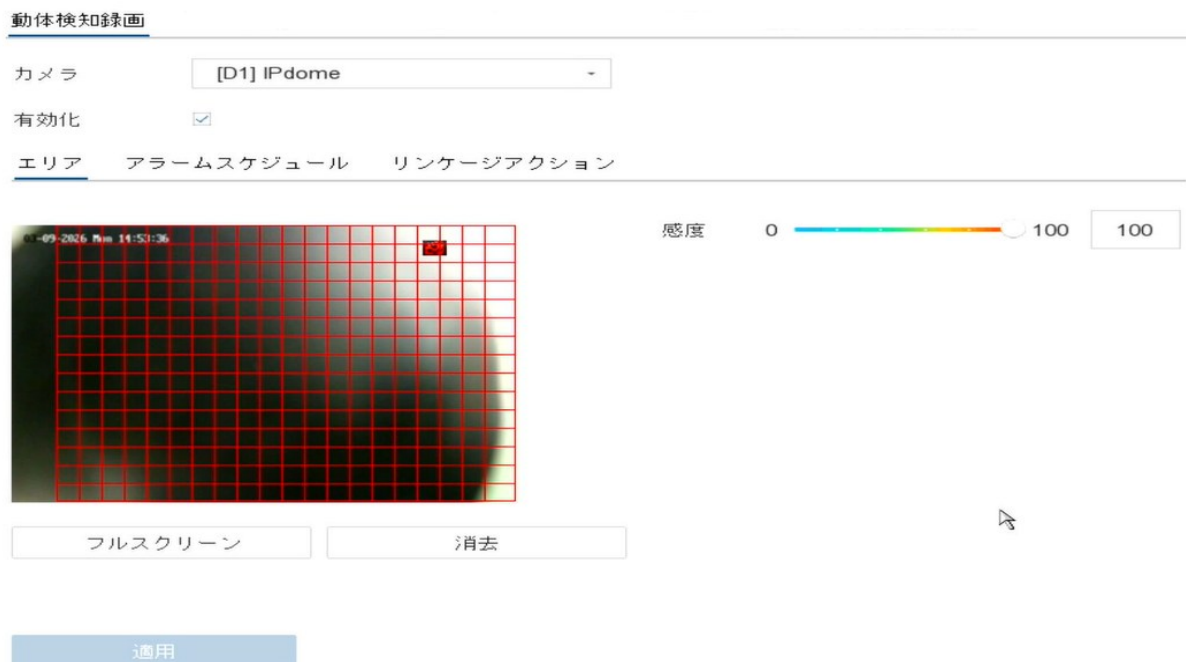


図5-11 動体検知録画

- (2) カメラを設定します。
- (3) 有効にします。
- (4) エリアを設定します。マウスのドラッグ動作で検知（赤い網掛け）エリアを四角形に生成します。
- (5) 感度を調整します。値が高いほど、検知が発生しやすくなります。
- (6) アラームスケジュールを設定します。
詳細は「5.7.1 アラームスケジュールの設定」を参照してください。
- (7) リンク動作を設定します。
詳細は「5.7.2 リンケージアクションの設定」を参照してください。
- (8) [適用]をクリックします。

5. システム

5.5. イベント（通常イベント）

5.5.2. ビデオ干渉

ビデオ干渉はレンズカバーをかけたときに警報を発し、警報対応を行います。

(1) 「システム」→「イベント」→「通常イベント」→「ビデオ干渉」に移動します。

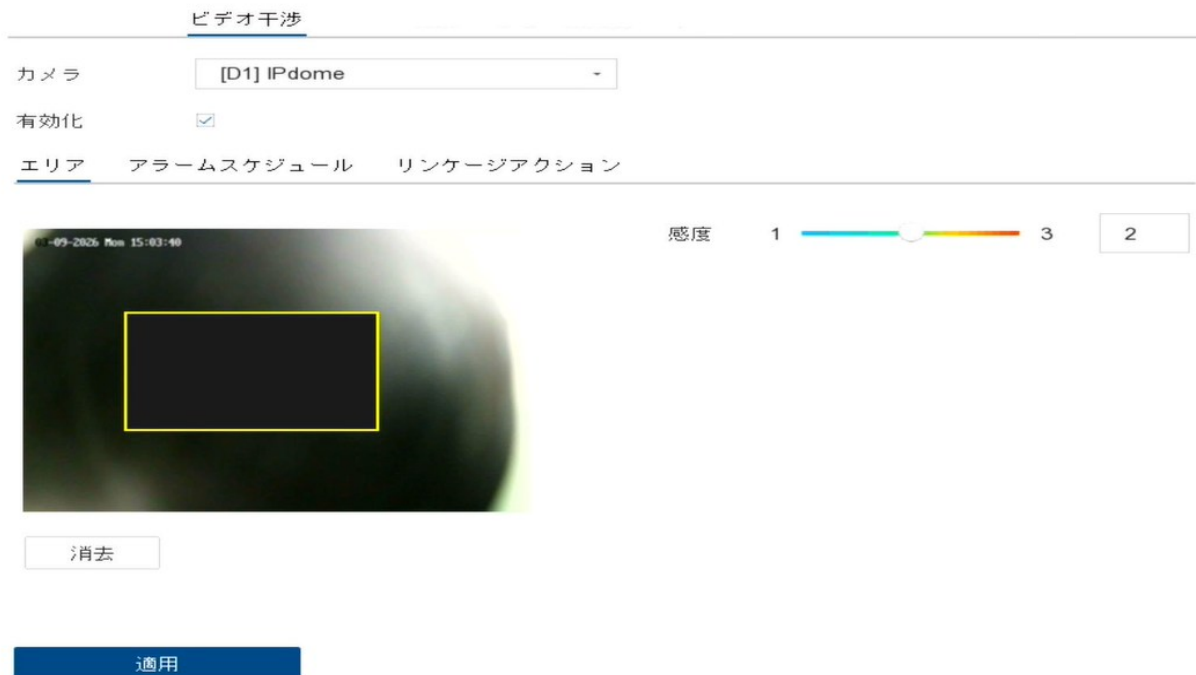


図5-12 ビデオ干渉

- (2) カメラを設定します。
- (3) 有効にします。
- (4) エリアを設定します。マウスのドラッグ動作で検知（黄色枠）エリアを四角形に生成します。
- (5) 感度を調整します。値が高いほど、検知が発生しやすくなります。
- (6) アラームスケジュールを設定します。
詳細は「5.7.1 アラームスケジュールの設定」を参照してください。
- (7) リンク動作を設定します。
詳細は「5.7.2 リンケージアクションの設定」を参照してください。
- (8) [適用]をクリックします。

5. システム

5.5. イベント（通常イベント）

5.5.3. ビデオロス

カメラのビデオ損失を検出し、アラーム応答動作を行います。

ステップ

- (1) 「システム」 → 「イベント」 → 「通常イベント」 → 「ビデオロス」に移動します。

ビデオロス

カメラ

有効化

アラームスケジュール リンケージアクション

スケジュール録画 録画無し

	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	
月														1
火														2
水														3
木														4
金														5
土														6
日														7

図5-13 ビデオロス

- (2) カメラを設定します。
- (3) 有効にします。
- (4) アラームスケジュールを設定します。
詳細は「5.7.1 アラームスケジュールの設定」を参照してください。
- (5) リンク動作を設定します。
詳細は「5.7.2 リンケージアクションの設定」を参照してください。
- (6) [適用]をクリックします。

5. システム

5.5. イベント（通常イベント）

5.5.4. アラーム入力

外部センサアラームの連動動作を設定します。

ステップ

- (1) 「システム」 → 「イベント」 → 「通常イベント」 → 「アラーム入力」に移動します。

アラーム入力				
アラーム入力 No.	アラーム名	アラームタ...	有効	編集
ローカル<-1		N.O	いいえ	✎
ローカル<-2		N.O	いいえ	✎
ローカル<-3		N.O	いいえ	✎
ローカル<-4		N.O	いいえ	✎

図5-14 アラーム入力

注記

ローカルアラーム入力:ローカルアラーム入力は、ビデオレコーダの端子台に接続された外部機器によってトリガされます。

- (2) 目的のアラーム入力の ✎ をクリックします。

編集
✕

アラーム... ローカル<-1 タイプ N.O

アラーム名

処理方式 不使用 入力 ワンキー解除

アラームスケジュール リンケージアクション 複合アラーム

スケジュール録画 録画無し 編集

	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	
月														1
火														2
水														3
木														4
金														5
土														6
日														7

コピー先
適用

図5-15 アラーム入力の編集

5. システム

5.5. イベント（通常イベント）

5.5.4. アラーム入力

- (3) アラーム名のカスタマイズを行います。
- (4) アラームの種類をN.O（ノーマルオープン）またはN.C（ノーマルクローズ）に設定します。
- (5) 「設定」を「入力」に調整して有効にしてください。

i 注記

- 「設定」を「なし」に調整すると、アラーム入力は無効になります。
- 「設定」を「One-Key Disarmig」に設定すると、選択したアラーム入力のリンク方法は無効になります。

- (6) アラームスケジュールを設定します。
詳細は「5.7.1 アラームスケジュールの設定」を参照してください。
- (7) リンク動作を設定します。
詳細は「5.7.2 リンケージアクションの設定」を参照してください。
- (8) [適用]をクリックします。

5. システム

5.5. イベント（通常イベント）

5.5.5. アラーム出力

アラーム発生時にアラーム出力をトリガします。

ステップ

- (1) 「システム」 → 「イベント」 → 「通常イベント」 → 「アラーム出力」に移動します。

アラーム出力

アラーム出力No.	アラーム名	アラーム出力時間	編集
ローカル->1		5s	
ローカル->2		5s	
ローカル->3		5s	
ローカル->4		5s	

図5-16 アラーム出力

- (2) 目的のアラーム出力の をクリックします。

編集

アラーム... ローカル->1 アラーム... 5s アラーム... 閉じる

アラーム...

アラームスケジュール

スケジュール録画 録画無し 編集

	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	
月														1
火														2
水														3
木														4
金														5
土														6
日														7

コピー先 トリガー 適用

図5-17 アラーム出力の編集

- (3) アラーム名のカスタマイズを行います。
- (4) 「アラーム出力時間」を選択します。
- (5) 「トリガー」をクリックしますと、アラーム出力が有効化されます
- (6) アラームスケジュールを設定します。
- 詳細は「5.7.1 アラームスケジュールの設定」を参照してください。
- (7) [適用]をクリックします。

5. システム

5.5. イベント（通常イベント）

5.5.6. 異常検知設定

レコーダーの様々な異常を検知して警報を発報することが可能です。

ステップ

(1) 「システム」→「イベント」→「通常イベント」→「異常検知設定」に移動します。

異常検知設定

イベント提示有効にする

イベントヒントの設定 

異常検知タイプ HDDフル


<input type="checkbox"/> 通常リンクージ	<input type="checkbox"/> アラーム出力
<input type="checkbox"/> ブザー	<input type="checkbox"/> ローカル->1
<input type="checkbox"/> 監視センターに送信	<input type="checkbox"/> ローカル->2
<input type="checkbox"/> メール送信	<input type="checkbox"/> ローカル->3
	<input type="checkbox"/> ローカル->4
	<input type="checkbox"/> ローカル->5

適用

図5-18 異常検知設定

(2) イベントヒントを設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターにヒントが表示されます。

- 1) 「イベント提示有効にする」を有効にします。
- 2) ヒントとするイベントを選択します。

●  をクリックすると、イベントを選択するためのイベント・ヒント設定します。

(3) 「リンクージアクション」、「アラーム出力」を設定します。

(4) [適用]をクリックします。

5. システム

5.6. ライブ表示

5.6.1. 全般

一般パラメータの設定

「出カインターフェイス」「ミュート」「オーディオオン」
「イベント出カインターフェイス」などを設定できます。

ステップ

(1) 「システム」→「ライブ表示」→「全般」の順に移動します。

The screenshot shows a settings interface with the following items:

- ビデオ出カインターフェイス: HDMI1/VGA
- イベント出力: HDMI1/VGA
- ライブ表示方式: 3*3
- フルスクリーン表示時間: 10s
- アラーム出力時間: 切替無し
- 音声出力有効:
- 音量: 1 [Slider] 5 [3]

At the bottom, there is a blue button labeled "適用".

図5-19 ライブビュー全般

(2) ライブビューのパラメータを設定します。

ビデオ/イベント出カインターフェイス

ライブビューおよびイベントの映像出力先のインターフェイスを選択します。

ライブ表示方式

画面の分割数を選択します。

アラーム出力/フルスクリーン表示時間

それぞれアラームの出力時間、フルスクリーン表示を維持する時間を選択します。

音声出力有効

選択したビデオ出力のオーディオ出力をオン/オフします。

音量

選択したビデオ出カインターフェイスのライブビュー、再生、
および双方向オーディオボリュームを調整します。

(3) [適用]をクリックします。

5. システム

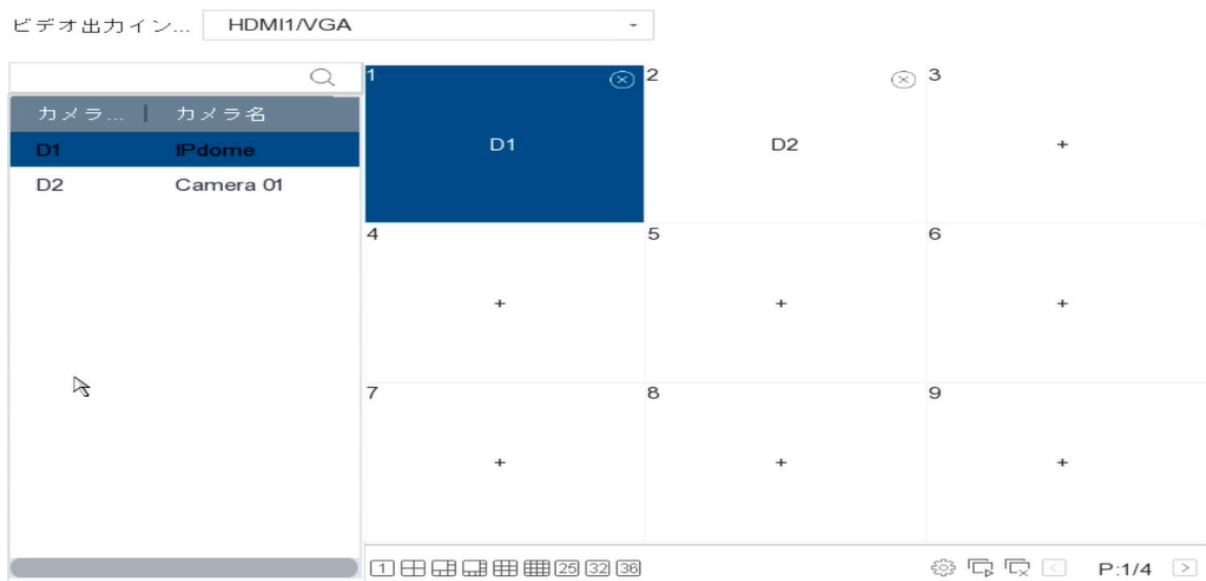
5.6. ライブ表示

5.6.2. 表示

登録したカメラの配置を設定できます。



ステップ

- (1) 「システム」 → 「ライブ表示」 → 「表示」の順に移動します。



適用

図5-20 ライブビュー表示

- (2) 出カインターフェースの設定をします。
- (3) ウィンドウを選択し、表示したい一覧をダブルクリックします。
 +は画面にカメラが表示されないことを意味します。
- (4) オプション:  をクリック...すべてのカメラのライブビューを開始する。
 をクリック...すべてのカメラのライブビューを停止する。
- (5) [適用]をクリックします。

5. システム

5.6. ライブ表示

5.6.3. チャンネルゼロ

画像品質に影響を与えず帯域幅要件を減らすために、WebブラウザまたはCMS (クライアント管理システム)ソフトウェアからリアルタイムで多くのチャンネルのリモートビューを取得する必要がある場合に、チャンネルゼロエンコーディングを有効にします。

ステップ

- (1) 「システム」 → 「ライブ表示」 → 「チャンネルゼロ」の順に移動します。

チャンネルゼロエンコーディング有効	<input type="checkbox"/>
フレームレート	フルフレーム ▾
最大ビットレート方式	全般 ▾
最大ビットレート (Kbps)	1792 ▾

適用

図5-21 チャンネルゼロ

- (2) 「チャンネルゼロエンコーディング有効」にチェックを入れます。
- (3) フレームレート、最大ビットレート方式、最大ビットレートを設定します。
高いフレームレートとビットレートは、より高い帯域幅要求を必要とします。
- (4) [適用]をクリックします。

5. システム

5.7. イベント設定

5.7.1. アラームスケジュールの設定

各イベント設定に付随するアラームスケジュールの設定方法です。

分単位で設定する入力編集と、1時間毎をドラッグで編集するエリア編集があります。


入力編集

アラームスケジュールを分単位で設定可能です。曜日毎に8個までの設定が可能です。

ステップ

- (1) アラームスケジュール設定画面の[編集]をクリックします。

図 5-22 アラームスケジュールの設定1

- (2) 曜日を選択し、時間区分を設定します。1日8回まで設定できます。
- (3) 時間区分の  をクリックすることで編集が可能になります。

注記

期間は、反復又は重複して設定しないでください。

- (4) [適用]をクリックします。
- (5) [OK]をクリックします。

5. システム

5.7. イベント設定

5.7.1. アラームスケジュールの設定

エリア編集

アラームスケジュールを1時間単位で設定可能です。曜日毎に8個までの設定が可能です。

ステップ

- (1) アラームスケジュール設定画面の[スケジュール録画]または[録画無し]をクリックします。
スケジュールが黄色枠で囲まれ、マウスカーソルが描画モード（ペンの形）になります。

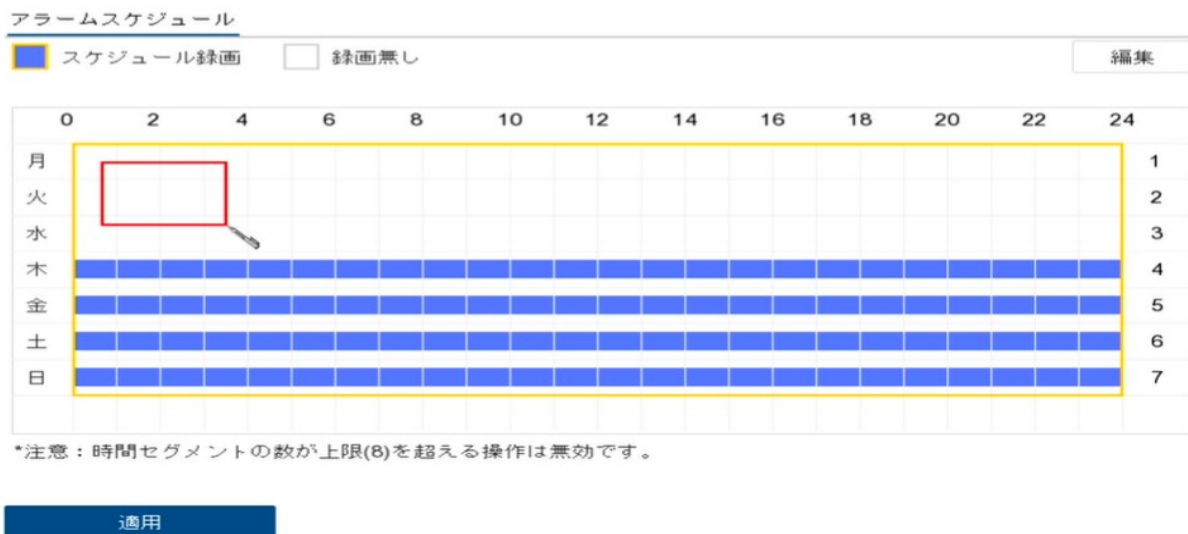


図 5-23 アラームスケジュールの設定2

- (2) ドラッグでエリアを描画しますと、自動的にスケジュール設定に反映されます。
- (3) [適用]をクリックします。

5. システム

5.7. イベント設定

5.7.2. リンケージアクションの設定

各イベント設定に付随するリンケージアクションの設定方法です。

ステップ

- (1) 各イベント設定画面の[リンケージアクション]をクリックします。

リンケージアクション

<input type="checkbox"/> 通常リンケ...	<input type="checkbox"/> トリガーア...	<input type="checkbox"/> トリガ...	PTZリンケージ	<input type="checkbox"/> 音声アラ...
<input type="checkbox"/> ポップアッ...	<input type="checkbox"/> ローカル->1	<input checked="" type="checkbox"/> D1	PTZリン... [D1] IPdc -	
<input type="checkbox"/> ブザー	<input type="checkbox"/> ローカル->2	<input type="checkbox"/> D2	<input type="radio"/> プリセ... 1 -	
<input type="checkbox"/> 監視センタ...	<input type="checkbox"/> ローカル->3		<input type="radio"/> バトロ... 1 -	
<input type="checkbox"/> メール送信	<input type="checkbox"/> ローカル->4		<input type="radio"/> バター... 1 -	
<input type="checkbox"/> 音声ア...	<input type="checkbox"/> ローカル->5			

適用

図 5-24 リンケージアクションの設定

通常リンケージ

- (1) ポップアップアラート
アラーム発生時、トリガーチャンネルをフルスクリーン表示します。
- (2) ブザー
アラーム発生時、レコーダーからブザー音を発報します。
- (3) 監視センターに送信
アラーム発生時、「5.4.2. プラットホームへのアクセス」で設定したホストに通知を送信します。
- (4) メール送信
アラーム発生時、「5.4.1. 電子メール」にて設定したアドレスにメールを送信します。

5. システム

5.7. イベント設定

5.7.2. リンケージアクションの設定

トリガーアラーム出力

アラーム発生時に、アラームの出力先を設定します。

トリガーチャンネル

アラーム発生時に、

PTZリンケージ

アラーム発生時にPTZアクションを行うカメラを設定します。

事前にカメラ側でPTZアクションのプリセット、パトロール、パターンを設定しておく必要があります。

音声アラームと発光アラームの連動

一部のネットワークカメラでは、アラーム連動動作を音声アラームやランプアラームに設定できます。

6. カメラ

6.1. IPカメラ

自動検索オンラインネットワークカメラの追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認します。

ステップ

- (1) 「カメラ」 → 「IPカメラ」に移動します。
- (2) [未追加のオンラインデバイス数]をクリックします。
同じネットワークセグメントのオンラインカメラが一覧に表示されます。

番号	状態	セキュ...	IPアドレス	編集	デバイスモデル
1	—	✓ アク...	[Redacted]	✎	[Redacted]
2	—	✓ アク...	[Redacted]	✎	[Redacted]

i 注記

選択したカメラが起動していることを確認します。

- (4) ネットワークカメラを選択し[追加]をクリックして追加します。

6. カメラ

6.1. IPカメラ

ネットワークカメラを手動で追加する

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認します。

ステップ

- (1) 「カメラ」 → 「IPカメラ」に移動します。
- (2) 「カスタム追加」または追加したいチャンネルの「+」をクリックします。

- (3) ネットワーク

チャンネルのデフォルトパスワードを使用する

有効にすると、ビデオレコーダーは設定したチャンネルのデフォルトパスワードでカメラを追加します。

- (4) [追加]をクリックします。


6. カメラ

6.1. IPカメラ

ネットワークカメラの編集

ネットワークカメラのIPアドレスやプロトコルなどを編集できます。

ステップ

- (1) 「カメラ」 → 「IPカメラ」 に移動します。
- (2) 編集したいカメラにカーソルを合わせて、 をクリックします。
- (3) IPカメラのステータスを編集します。
- (4) [OK] をクリックします。

IPカメラ設定ファイルのインポート/エクスポート

追加したネットワークカメラの情報をエクセルファイルに生成し、IPアドレス、ポート、adminのパスワードなどのバックアップ用にローカルデバイスにエクスポートすることができます。また、エクスポートされたファイルは、コンテンツの追加や削除など、コンピュータ上で編集することができ、エクセルファイルを他のデバイスにインポートすることで設定をコピーすることができます。

開始前に

USBフラッシュドライブなどのバックアップ装置をビデオレコーダーに接続します。

ステップ

- (1) 「カメラ」 → 「IPカメラ」 に移動します。
- (2) [インポート/エクスポート] をクリックします。
- (3) 接続されたバックアップ・デバイスに設定ファイルをエクスポート/インポートします。
- (4) 「ストレージデバイス」と「フォルダパス」を設定します。
- (5) [エクスポート/インポート] をクリックします。

次のステップ

インポート処理が完了したら、ビデオレコーダーを再起動する必要があります。

6. カメラ

6.1. IPカメラ

追加設定

ステップ

- (1) 「カメラ」 → 「IPカメラ」 に移動します。
- (2) [追加設定] をクリックします。
- (3) 必要に応じてパラメータを設定します。

アップグレード

ネットワークカメラをアップグレードします。

プロトコル

標準プロトコルで構成されていないネットワークカメラを接続するには、カスタマイズしたプロトコルを設定します。

システムには、32のカスタマイズされたプロトコルが用意されています。

カメラ起動パスワードの設定

ネットワークカメラを起動/追加するときのデフォルトパスワードを変更します。既に接続されているネットワークカメラの場合は、次のポップアップウィンドウでパスワードを変更できます。

6. カメラ

6.2. 表示

「OSD (オンスクリーンディスプレイ)」 「画像設定」「露出設定」 「昼夜切り替え設定」などを設定します。

ステップ

(1) 「カメラ」 → 「表示」に移動します。



図6-3 カメラ表示設定

- (2) カメラを設定します。
- (3) 必要に応じてパラメータを設定します。

6. カメラ

6.2. 表示

OSD設定

日時、カメラ名など、カメラのOSD (オンスクリーン表示)の設定を行います。

画像設定

ライブビューや録画エフェクトの明るさ、コントラスト、彩度などの画像パラメータをカスタマイズします。

露光

カメラの露出時間を設定します(1/10000~1秒)。

露出値が大きいほど画像が明るくなります。

日中/夜間切替

周囲の照明条件に応じて、昼間、夜間、オートスイッチモードに設定できます。

背景光

カメラのワイドダイナミックレンジ(0~100)を設定します。

周囲の照明と被写体の明るさの差が大きい場合は、WDR値を設定してください。

画像強調

画像コントラスト強調を行うための設定です。

- (4) プレビューウィンドウでテキストフレームをドラッグして、OSD位置を調整します。
- (5) [適用]をクリックします。

6. カメラ

6.3. プライバシーマスク

表示または記録できないプライバシー・マスク・エリアを設定することができます。

ステップ

- (1) 「カメラ」 → 「プライバシーマスク」 に移動します。
- (2) カメラを選択します。
- (3) 有効にします。

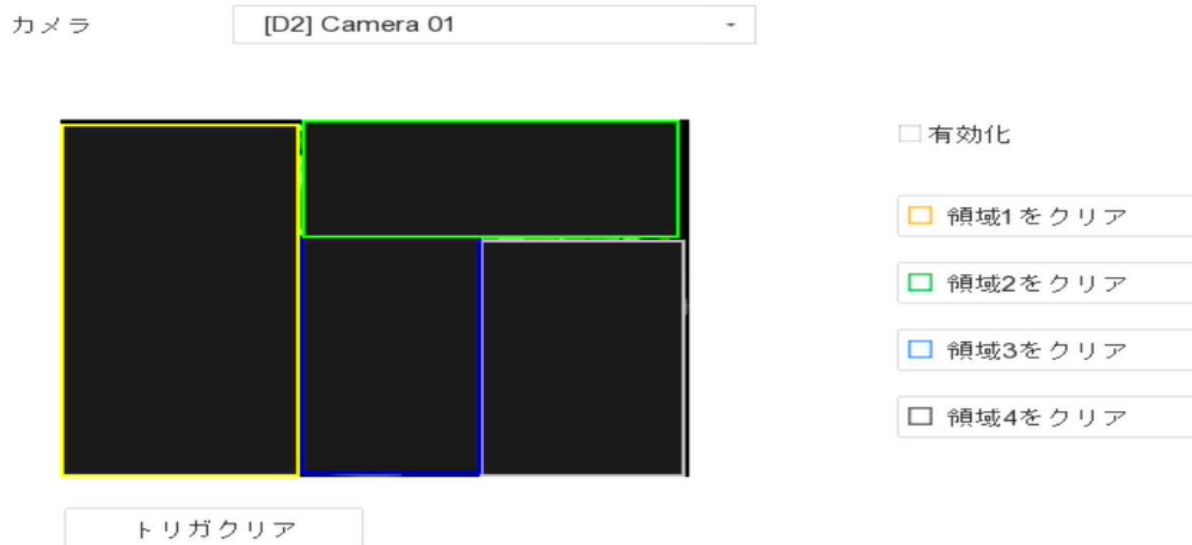


図6-4 プライバシーマスク

- (4) ドラッグして、ウィンドウ上に領域を描画します。領域のフレームは、異なる色でマークされます。

i 注記
最大4つのプライバシーマスク領域を設定できます。各エリアのサイズを調整することができます。

- (5) 適用をクリックします。

6. カメラ

6.4. ビデオパラメータ

6.4.1. メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されたデータに影響を与えるプライマリストリームを指し、ビデオの画質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較して、主ストリームは、より高い解像度およびフレームレートを有します。より高い品質のビデオを提供します。

ステップ

- (1) 「カメラ」→「パラメータ」→「メインストリーム」に移動します。
- (2) 「記録パラメータ」を設定します。

ストリームタイプ

ストリームタイプで「ビデオ&オーディオ」を選択しますと、音声も記録することができます。

画像解像度

画像解像度とは、デジタル画像がどれだけ詳細に記録できるかを測る尺度であり、解像度が高いほど、高品質なビデオを撮影します。画素数として解像度を指定することができます。縦列(幅)、ピクセル行の数(高さ)、たとえば、1024×768です。

フレームレート

フレームレートとは、1秒間に取り込まれるフレーム数のことです。より高いフレームレートは、ビデオストリーム内に移動がある場合に、全体的に動作が滑らかなビデオを撮影します。

ビットレート

ビットレート(Kbit/sまたはMbit/s)は、しばしば速度と呼ばれますが、実際にはビット/時間の単位であって、距離/時間の単位ではない数を定義します。

H.264+を有効にする

H.264 は、低ビットレートで高画質を保証するのに役立ちます。帯域幅とHDD記憶領域の必要性を効果的に低減することができます。

- (3) [適用]をクリックします。

6. カメラ

6.4. ビデオパラメータ

6.4.2. サブストリーム

サブストリームは、メインストリームに沿って動作する2番目のコーデックです。

直接の記録品質を犠牲にすることなく、発信インターネット帯域幅を削減することができます。サブストリームは、スマートフォンのアプリケーションがライブビデオを見るために独占的に使用することが多いです。

インターネットの速度が制限されているユーザーは、この設定から最も利益を得ることができます。

ステップ

- (1) 「カメラ」 → 「パラメータ」 → 「サブストリーム」 に移動します。
- (2) 「記録パラメータ」 を設定します。

※メインストリームと設定項目は変化ありませんが、画質や最大ビットレートの最高値がメインストリームよりも低く設定されています。

- (3) [適用] をクリックします。

7. ストレージ

7.1. スケジュール

7.1.1. 録画

設定されたスケジュールに従って、ビデオレコーダーが自動的に録画を開始/停止します。

ステップ

- (1) 「ストレージ」 → 「スケジュール」 → 「録画」に移動します。



図7-1 記録スケジュール

- (2) カメラを設定します。
- (3) 有効にします。
- (4) スケジュールを編集します。
編集方法は「5.7.1 アラームスケジュールの設定」を参照してください。
- (5) [上級]をクリックします。



図7-2 上級設定

7. ストレージ

7.1. スケジュール

7.1.1. 録画

7.1.1. 録画

音声録音

ビデオファイルにオーディオが記録されます。

事前記録

スケジュールされた時刻またはイベントの前に録音するように設定した時刻です。
たとえば、10:00にアラームが発生し、録画前の時間を5秒に設定すると、
9:59:55からの映像を録画します。

事後記録

イベントの後に録音するように設定した時刻またはスケジュールされた時刻です。
たとえば、アラームがトリガされた記録が11:00に終了し、
記録後の時間を5秒に設定すると、11:00:05まで記録されます。

ストリームタイプ

メインストリームとサブストリームを選択して記録することができます。
サブストリームを選択すると、同じストレージ・スペースで長時間録画できます。

ビデオ/画像の有効期限

有効期限は、記録されたファイルをHDDに保存する期間です。期限に達すると、
ファイルは削除されます。有効期限を0に設定した場合は、ファイルは削除されません。
ファイルの実際の保存時間は、HDDの容量によって決まります。

- (6) [OK]をクリックして、詳細設定を保存します。
- (7) [適用]をクリックします。

7. ストレージ

7.2. ストレージデバイス

HDD初期化

初めてHDDを使用する場合は、インストール後に初期化してください。

開始前に

ビデオレコーダーには、少なくとも1つHDDを取り付けてください。

ステップ

(1) 「ストレージ」 → 「ストレージデバイス」に移動します。



図7-3 ストレージデバイス

- (2) HDDを選びます。
- (3) [フォーマット]をクリックします。

7. ストレージ

7.2. ストレージデバイス

ネットワークディスクの追加

割り当てられたNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワークHDDとして使用することができます。

最大8台のネットワークディスクを追加できます。

ステップ

- (1) 「ストレージ」 → 「ストレージデバイス」に移動します。
- (2) [追加]をクリックします。



カスタム追加	
NetHDD	NetHDD 1
タイプ	NAS
NetHDD IP	. . .
NetHDD ディレクトリ	

図7-4 NetHDDの追加

- (3) 「NetHDD」を設定します。
- (4) タイプを「NAS」または「IPSAN」に設定します。
- (5) 「NetHDD IP」アドレスを入力します。
- (6) [検索]をクリックして、使用可能なディスクを検索します。
- (7) リストからNASディスクを選択するか、
手動でNetHDDディレクトリにディレクトリを入力します。
- (8) [OK]をクリックします。

7. ストレージ

7.3. ストレージモード

7.3.1. グループモード

HDDグループの設定

複数のHDDをまとめて管理できます。HDDの設定により、指定したチャンネルのビデオを特定のHDDグループに記録できます。

ステップ

- (1) 「ストレージ」 → 「ストレージモード」に移動します。
- (2) 「モード」を「グループ」に選択します。

モード クォータ グループ

HDDグループに録画

<input checked="" type="checkbox"/> IPカメラ	<input checked="" type="checkbox"/> D1	<input checked="" type="checkbox"/> D2	<input checked="" type="checkbox"/> D3	<input checked="" type="checkbox"/> D4	<input checked="" type="checkbox"/> D5	<input checked="" type="checkbox"/> D6	<input checked="" type="checkbox"/> D7	<input checked="" type="checkbox"/> D8
	<input checked="" type="checkbox"/> D9	<input checked="" type="checkbox"/> D10	<input checked="" type="checkbox"/> D11	<input checked="" type="checkbox"/> D12	<input checked="" type="checkbox"/> D13	<input checked="" type="checkbox"/> D14	<input checked="" type="checkbox"/> D15	<input checked="" type="checkbox"/> D16
	<input checked="" type="checkbox"/> D17	<input checked="" type="checkbox"/> D18	<input checked="" type="checkbox"/> D19	<input checked="" type="checkbox"/> D20	<input checked="" type="checkbox"/> D21	<input checked="" type="checkbox"/> D22	<input checked="" type="checkbox"/> D23	<input checked="" type="checkbox"/> D24
	<input checked="" type="checkbox"/> D25	<input checked="" type="checkbox"/> D26	<input checked="" type="checkbox"/> D27	<input checked="" type="checkbox"/> D28	<input checked="" type="checkbox"/> D29	<input checked="" type="checkbox"/> D30	<input checked="" type="checkbox"/> D31	<input checked="" type="checkbox"/> D32

図7-5 グループモード

- (3) 「グループ番号」を選択します。
- (4) HDDグループに記録するIPカメラを選択します。
- (5) [適用]をクリックします。
- (6) ビデオレコーダーを再起動して、新しいストレージモード設定を有効にします。
- (7) 再起動後「ストレージ」 → 「ストレージデバイス」に移動します。
- (8) 目的のHDDをクリックして[編集]をクリックして、グループを設定します。
- (9) 現在のHDDのグループ番号を選択します。
- (10) [OK]をクリックします。

注記

HDDグループ番号を変更した場合は、カメラのHDDグループを再設定してください。

7. ストレージ

7.3. ストレージモード

7.3.1. グループモード

7.3.2. クォータモード

HDD割り当て量の設定

各カメラには、ビデオを保存するために割り当てられた保存量を設定できます。

ステップ

- (1) 「ストレージ」 → 「ストレージモード」に移動します。
- (2) 「モード」を「クォータ」に設定します。

モード	<input checked="" type="radio"/> クォータ <input type="radio"/> グループ
機器種別	IPC
ビデオ	
カメラ	[D1] IPdome
録画使用容量	24.00GB
最大録画容量(GB)	0
画像	
イメージ使用容量	1024.00MB
最大イメージ容量(GB)	0
▲ 空きクォータスペース/総ディスクスペース : 1863GB/186...	
<input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="コピー先"/>	

図7-6 クォータモード

- (3) カメラで割り当てを設定するカメラを選択します。
- (4) 「記録容量」に「保存容量」を入力します。

i 注記

クォータ容量を0に設定すると、すべてのカメラがHDDの合計容量を動画・画像に使用します。

- (5) [適用]をクリックします。
- (6) ビデオレコーダーを再起動して、新しい設定を有効にします。

7. ストレージ

7.4. 詳細設定

ステップ

(1) 「ストレージ」 → 「詳細設定」に移動します。

上書き	<input checked="" type="checkbox"/>
eSATA	eSATA1 -
用途	録画/キャプチャ -
HDDスタンドバイにする	<input checked="" type="checkbox"/>
カメラVCAデータを保存	<input checked="" type="checkbox"/>
録画の書き込みバッファ...	<input checked="" type="checkbox"/>

クォータモードでは、チャンネル内の複数のビデオが同一のクォータを共有することはできません。有効なクォータを持つチャンネルを割り当てるか、グループモードに切り替えてください。

適用

図7-7 詳細設定

(2) 必要に応じてパラメータを設定します。

上書き

- 無効:HDDがいっぱいになると、ビデオレコーダーの書き込みが停止します。
- 有効: ハードドライブがいっぱいのときは、最も古いファイルを削除して、ビデオレコーダーは新しいファイルを書き込み続けます。

HDDスタンドバイにする

長時間動作しないHDDはスリープ状態になります。

カメラVCAデータ保存

カメラのVCAデータを検索するために保存されます。

録画の書き込みバッファを動的に調整

映像データの欠落を防ぐために、レコーダーがバッファメモリを動的に調整する機能です。

8. メンテナンス

8.1. デフォルト

ステップ

- (1) 「メンテナンス」 → 「デフォルト」 に移動します。
- (2) 「リストア・タイプ」 を選択します。

デフォルトに回復

ネットワーク(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MTU、NIC作業モード、デフォルトルート、サーバポートなど)およびユーザーアカウントパラメータを除くすべてのパラメータを、工場出荷時の設定に復元します。

出荷状態回復

すべてのパラメータを工場出荷時の設定に戻します。

非アクティブに復元

デバイスを非アクティブ状態に復元し、ユーザー・アカウントの復元以外のすべての設定を変更しないでください。

- (3) [はい] をクリックします。デバイスは自動的にリブートします。

8.2. ログ検索

ビデオレコーダーの「操作」「アラーム」「例外」「情報」をログに記録し、いつでも確認することができ、エクスポートすることができます。

ステップ

- (1) 「メンテナンス」 → 「ログ情報」 に移動します。
- (2) 検索条件を設定します。
- (3) [検索] をクリックします。

8. メンテナンス

8.3. システムサービス

ステップ

- (1) 「メンテナンス」 → 「システムサービス」 → 「システムサービス」 に移動します。
- (2) 必要に応じてパラメータを設定します。

RTSP

RTSP認証を設定することで、ライブビューのストリームデータを特別に保護できます。

RTSP認証

2つの認証タイプが選択可能です。ダイジェストを選択すると、ダイジェスト認証を持つリクエストのみが、IPアドレスを介してRTSPプロトコルによってビデオストリームにアクセスできます。セキュリティ上の理由から、認証タイプとしてダイジェストを選択することをお勧めします。

ISAPI

ISAPI (Internet Server Application Programming Interface)は、HTTPベースのオープンプロトコルであり、システム機器(ネットワークカメラ、NVRなど)間の通信を実現することができます。ビデオレコーダーはサーバとして使用され、システムはビデオレコーダーを見つけて接続することができます。

HTTP

管理ユーザーアカウントは、GUIまたはWebブラウザからHTTPサービスを無効にすることができます。HTTPが無効になると、ISAPIおよびONVIFを含むすべての関連サービスも終了します。

HTTP認証

HTTPサービスを有効にする必要がある場合は、アクセスセキュリティを強化するためにHTTP認証を設定できます。2つの認証タイプを選択できます。セキュリティ上の理由から、認証タイプとしてダイジェストを選択することをお勧めします。

- (5) [適用]をクリックします。

9. アラーム

9.1. イベントヒントの設定

イベントが発生すると、アラームセンターで詳細を表示できます。

アラームセンターでヒントを出すイベントを選択します。

ステップ


- (1) [右上隅]の  をクリックします。
- (2) 「異常」「基本イベント」「スマートイベント」、「IoTイベント」を設定します。
- (3) [設定]ボタンをクリックします。




図9-1 アラームセンター

- (4) ヒントにするイベントをクリックして選択します。
- (5) [OK]をクリックします。
選択したイベントが発生すると、アラーム情報が表示されます
(ローカルメニューの右上にあります)。

9.2. アラームセンターでのアラーム表示

ステップ

- (1) [右上隅]の  をクリックします。
- (2) 「異常」「基本イベント」「スマートイベント」、「IoTイベント」を表示します。

10. Web操作

Webブラウザからビデオレコーダーにアクセスできます。

「InternetExplorer11」「Microsoft EdgeのIEモード」でライブビュー出来ます。

※事前にダウンロードされるWebComponentsのインストールが必要です。

サポートされている解像度は、1024×768以上です。

10.1. ログイン

お客様は、インターネットアクセスを伴う製品の使用が、ネットワーク・セキュリティ上のリスクにさらされる可能性があることを認識するものとします。ネットワーク攻撃や情報漏洩を防ぐために、お客様自身の保護を強化してください。正常に動作しない場合は、販売店または最寄りのサービスセンターにご相談ください。

ステップ

(1) Webブラウザを開き、ビデオレコーダーのIPアドレスを入力し、Enterキーを押します。

i 注記

HTTPポートを変更した場合は、アドレスバーにhttp://IPアドレス:HTTPポートを入力します。
たとえば、http: 192.168.1.64:81です。

(2) 「ログインインタフェース」にユーザー名とパスワードを入力します。

(3) [ログイン]をクリックします。



The screenshot shows a login form with the following elements:

- A text input field for the username containing the text "admin".
- A password input field with masked characters (dots) and a toggle icon for visibility.
- A link labeled "パスワードを忘れましたか?" (Forgot your password?).
- A blue button labeled "ログイン" (Login).
- A privacy notice at the bottom: "製品を使用する際は、個人のプライバシーおよびその他の権利を尊重してください。" (When using the product, please respect individual privacy and other rights.)

図10-1 ログイン

(4) インストールのプロンプトに従って、プラグインをインストールします。

i 注記

プラグインのインストールを完了するには、Webブラウザを閉じる必要がある場合があります。

10. Web操作

10.2. ライブビュー

ログイン後「ライブビューインターフェース」が表示されます。

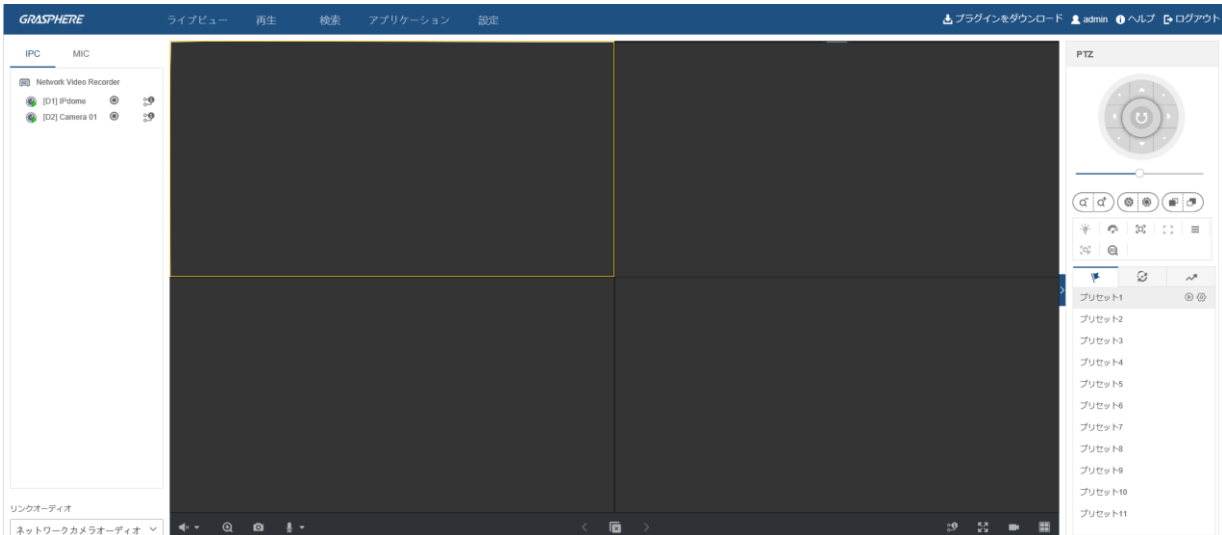


図10-2 ライブビュー

10.3. 再生

再生インターフェースを入力するには[再生]をクリックします。

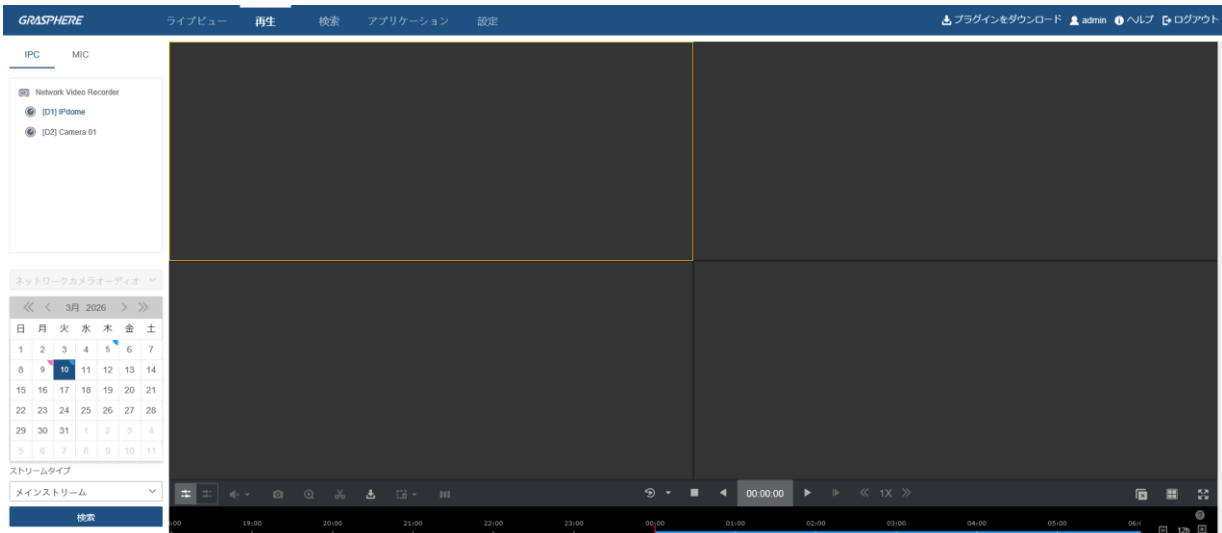


図10-3 再生

10.4. 設定

10. Web操作

設定インターフェースを入力するには[設定]をクリックします。

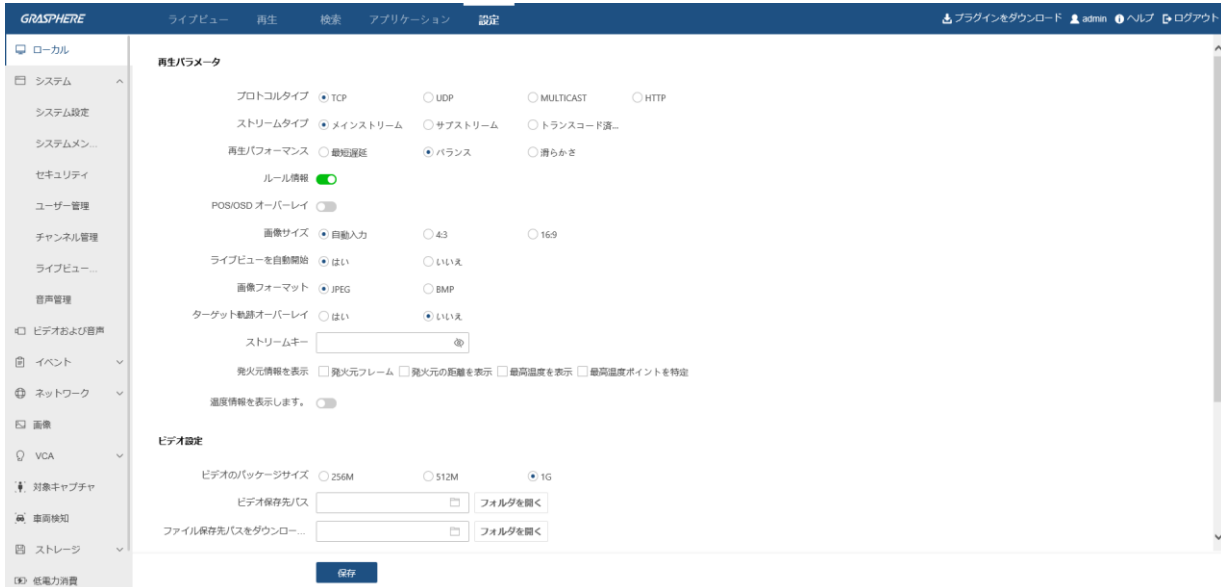


図10-4 設定

10.5. ログ

ステップ

- (1) [設定]→[システム]→[システムメンテナンス]→[ログ]へ移動します。
- (2) 検索条件を設定します。
- (3) [検索]をクリックします。

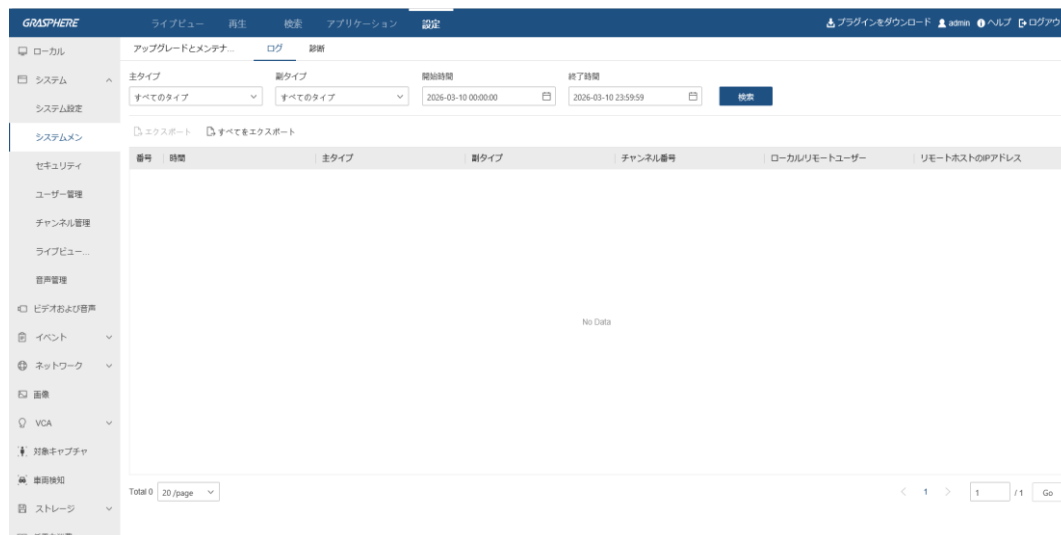


図10-5 ログ